

令和5年度阿倍野区区政会議福祉・健康づくり部会(令和5年7月13日開催)でのご意見と対応一覧

[分類]

- ①当年度(5年度)において対応
- ②6年度に対応予定
- ③6年度では対応できないが、今後引き続き検討
- ④その他

番号	意見内容(要約) (公表)	対応(回答) (公表)	分類
1	<p>【イベント等を通じたつながりづくりについて】 地域の方々が、様々な活動を継続されているが、以前のようにお住まいの方のことが分からない状況になっており、子どもが少なくなり、高齢者や認知症の方が増えていく中で、今までの活動をより充実させることは大切だと思う。 (中村委員)</p> <p>昔からの方は顔見知り、お付き合いがあるので世帯の状況は把握されている。それ以外(新しいマンションの方)とのギャップが町会での問題となっている。 (吉本委員)</p> <p>30~50歳代の方に、イベント等へ参加してもらうには、阿倍野区独自のスポーツイベントなどを開催して、子どもと一緒に参加してもらうようにしたいと思う。 阿倍野区は卓球の「王子サーブ」が生まれたゆかりの地であるので、もう少しアピールし、子どもとその親、高齢者までが参加できる卓球大会などのスポーツイベントを開催すれば、運動の機会になるだけではなく、皆さまが集まる場になるし、新しいボランティアを発掘する場としても有意義ではないか。 また、人が多く集まる食を伴うイベント(どっぶり、昭和町。)で町会や福祉のことなどについてアプローチできたら効果あると思う。 (金光委員)</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の5類移行により、地域活動が順次再開される中、これまで継続して取り組んでこられた高齢者食事サービス等、従来の活動をしっかり支援することが重要であると認識しております。スポーツ大会等のイベントは、地域のつながりづくりの面でも、健康づくりの面でも非常に効果的であると認識しており、つながりづくりの場として活用いただけるよう、区の地域福祉活動を担っている社会福祉協議会と連携して、広報・周知を行ってまいります。また、あべのカーニバルやスポーツフェスタなど区が関与するイベントについては、多様な世代の方に参画いただけるよう、プログラムなどを工夫してまいります。</p>	②
2	<p>【要援護者名簿の活用について】 町会長は地域の全体的なことは分かるが、細かいことは分からないので、地域にお住まいの高齢者の状況をどう把握するかが問題である。 町会長が要援護者名簿をよく知り、利用する体制ができていないと思う。 地域のコーディネーターと町会長が、要援護者名簿や食事サービスの訪問状況の情報を共有できれば、地域の変化が少しずつ分かってくると思う。 (北村委員)</p>	<p>高齢者の安否確認などの情報を、日ごろから関係者が共有できるよう、「要援護者名簿」の十分な活用を促すなど地域の取組を支援してまいります。 食事サービスについては、会食を基本としていますが、この間新型コロナウイルス感染症による地域の活動自粛のため、多くの地域では、配達や指定場所での配付等の工夫を行い、高齢者の安否確認や声かけによって、地域のつながりづくりにも役立っているとお聞きしています。地域の実情に応じて今後も実施していただければと考えています。</p>	②
3	<p>【緊急連絡先について】 独居・障がいの方の緊急連絡の登録は町会でやったらいいかなと思う。 (山崎委員)</p> <p>民生委員では独り暮らしの家庭に、冷蔵庫に入れておく「あべのあんしんキット」という取組をしている。これも民生委員だけでなく町会にもつなげていったらいいかなと思う。 (八代委員)</p> <p>「あべのあんしんキット」の内容が更新されないで、どこかで見直しが必要と思う。 (家永委員)</p>	<p>民生委員・児童委員協議会で取り組んでいる「あべのあんしんキット」は、75歳以上の独居の高齢者やこれに準じる高齢者や障がい者を対象に実施されている取組で、災害時や救急時等に活用する緊急連絡先や、かかりつけ医の情報等を冷蔵庫に保管しておく効果的な取組であると認識しております。 万が一に備えて、地域に必要な方がいらっしゃる場合は、お近くの民生委員または、区役所内の民生委員・児童委員協議会事務局へご相談ください。 区としても引き続き、広報等を行ってまいります。</p>	①
4	<p>【健康づくりについて】 いきいき百歳体操は、多くの人が集まって参加する仕組みだが、自宅で実施し、報告できるような工夫はできないか。日々の健康活動を記録し、その結果がポイントとなって抽選でプレゼントが当たる「アスマイル」というものがある。このような形で何か阿倍野区版のアプリができれば、個人の参加が浸透しやすいと思う。 プログラムの作成やお金の問題はあるが、姿勢としてそういう方向を向くかが大切である。 ラジオ体操の主催者側になると苦労も多く、朝早いので音量による苦情もあり、音響設備の準備や開始時間までの待機なども大変である。個人が好きな時にラジオ体操をして、アプリに登録するなどの方法で報告するといったシステムも必要ではないか。 この会議の一つの目的は、区役所が支援するための方法について、我々がいろいろ意見を出している。それに対して、行政のほうからできないというふうな感覚ではなく、どうやったらできるかという方向で議論してほしいと思う。 (北村委員)</p>	<p>「いきいき百歳体操」は福祉局が全市で実施している事業であり、専門職派遣による体操指導を受けるためには、集まって実施することが前提となっており、参加人数(5人以上)や実施回数(週1回以上)などの条件が定められています。 なお、阿倍野区社会福祉協議会では、自宅でも気軽にできる体操として、「あべのちょこっと体操」を実施し、DVD貸与等も行っていきますので、ぜひ活用ください。 また、大阪府が実施している健康アプリ「アスマイル」は、体重や睡眠時間、歩数などを毎日記録することができ、日々の健康活動を記録することでポイントがたまるしくみとなっています。 スケールメリットや費用対効果の観点から「アスマイル」は、府域全体を対象としており、参加者が多く見込め、協力事業者も一定確保されるため、区民のみを対象とする阿倍野区版アプリを開発・運用するよりも充実したサービスを提供することができそうです。 昨年度、阿倍野区では、日々の健康管理を記録できるウォーキングノートを作成し、配布したところ。引き続き、「アスマイル」のさらなる利用促進も含めて個人の健康づくりを後押しする情報発信の充実に取り組んでまいります。</p>	④
5	<p>【地域のつながりについて】 仕組みを作ることからではなく、ニーズを把握し、福祉課題を1つでもいいから解決していくことからスタートすればもっとみんなを巻き込めると思う。 福祉部会は福祉だけではなく、まちづくりでいろんな人たちとつながって、いろんな発想が出てくると思う。アプリにしても、まちづくりの活動をしている元気で若い学生たちも入っている中で提案したら、すぐできるかもしれない。予算・時間がかかる、先送りにするのではなく、すぐに動けるようなこともあるかなと思う。考え方として地域の中で育てあげてきた活動にプラスしていけば、地域の広がり・つながりが深まっていくような気がしております。 (中村委員)</p>	<p>地域の福祉活動を担っている様々な団体や福祉以外の分野で活動している方が集い、当事者の方から意見をお聞きする場を設けるなど、事例の共有とともに各種取組の継続発展や新たな取組の創出につなげてまいります。</p>	②